

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「わたしの生活は、私が創ります」
○学んだことを生かして主体的・対話的に考え、深く学び続ける子(知)
○互いのよさを認め合い、よりよい生き方を求め、協力し合う子(徳)
○命と体を大切に、心身共に健やかな体をつくる子(体)
○進んで人のために役立とうとし、地域に愛着をもつ子(公)
○広い視野をもち、チャレンジし続ける子(関)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

『豊かにかかわり、じっくり考える子』
この3年間の重点
○問題を発見し、解決する課題を設定する力
○情報を活用し、分析的に思考・判断する力

具体化した資質・能力

○児童が豊かに「ひと・もの・こと」に関わりながら問題を発見し、意欲的に解決する力
○集めた情報を、周りの人と関わりながら整理分析し、問題解決に向けて思考・判断する力

中期取組目標

『豊かにかかわり、じっくり考える子』を育てます。
○生活・並一タイムを核とし、「ひと・もの・こと」との関わりを深めながら、子どもたちが学ぶ楽しさを味わうことができるようCreativeな学び創りを目指します。
○すべての教育活動を通して、これからの社会を生き抜くための資質・能力を育みます。
○家庭・地域と連携し、地域の教育力を活かしながら、子どもが安心して生活できる学校を目指します。
○一人一人の持ち味を活かし、全員で学校づくりに参画していく職員を目指します。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (生きてはたらく知【授業改善】) and 具体的取組 (1)少人数指導・TT指導・教科分担制... (2)日課表にスキルタイム... (3)生活科・総合を中心に問題解決の資質・能力を育むCreativeな授業が...)

学力向上に関わる本校の状況

横浜市学力学習状況調査等からの実態把握
(1)学力の概要と要因の分析
これまでの市学力状況調査からみても、全体的に児童の学力は市の平均以下で低い。学習意識が高まっている学年もあるが、必ずしも学力向上とリンクしているわけではない。あきらめず、引き続き算数の少人数指導や、教科分担制などを取り入れ指導をしていく。生活意識は学年による凹凸が少なくなってきた。
(2)経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)
集合住宅で、留守家庭・保護家庭が多い。日本語指導を必要とする外国籍児童も在籍している。基本的な生活習慣が身につけていない児童が多いため、教員は授業改善に向けて重点研究やメンター研修等を充実させる。
(2)教科学習の状況
○国語科:「読むこと」「言語」分野に課題がみられる。正しい漢字を覚え日常でも使う、段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて文章を読む等が必要である。
○算数科:低学年は「数量関係」、高学年は「量と測定」の「数学的な考え方」に課題が見られる。「体験や量感をつかむこと」や基本だけでなく発展問題にも取り組む等が必要である。
○社会科:資料の読み取りや表現などの「技能」は少し向上したが、「思考・判断・表現」において課題がみられる。資料に書かれていないことを読みとり、考える力をつける等が必要である。
○理科:理科支援員配置により教育効果が表れ、「技能」の力がついた学年が複数あった。「思考・表現」に課題が見られるので、別の場面や生活場面にも適用させる力をつけていきたい。

今年度の目標

子どもたちが主体的、協働的に学ぶことができるように授業改善を進める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
○子どもたちが生き生きと主体的に課題を解決することができる授業を目指して、生活科・総合を中心に研究を進め、教員同士で互いの授業を見合いながら指導力を磨ける環境を整える。
○「豊かにかかわり、じっくり考える子」を意識した授業展開を図るとともに、少人数指導やTT指導・教科分担制を取り入れ、児童の理解と意欲を高め、基礎・基本の定着を目指す。
○日課表にスキルタイムを取り入れ、基礎的・基本的な知識や技能の習熟と外国語及び外国語活動を計画的に行う。
下半期

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (豊かな心【道徳・人権・児童理解】) and 具体的取組 (1)児童会活動のあいさつ運動... (2)異学年交流や道徳の時間... (3)職員会議内に児童理解の時間を設け...)

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心にかかわる児童の実態
○児童の実態としては、自己肯定感はあまり高くない。Y-Pアセスメントの結果から、学校に来ることを楽しみにしている児童は増えてきている。
(2)これまでの学校の取組状況
○児童会を中心に、あいさつ運動を実施。様々な国のあいさつを紹介した。
○ペア学年による交流。ふれあい遠足、日常の学習活動の中での交流を行った。
○道徳教育の推進。授業参観の実施。
○人権教育と学校保健委員会と連携し、安心できる学校づくりについて全校で取り組んだ。また人権週間では友達のをさを伝えあう活動を実施。
○毎月の職員会議内で児童理解の時間を設け児童の状況を共通理解した。状況に応じて、そのほかの場でも情報の共有を図った。

今年度の目標

子どもたちが「自分を大切に」「友達も大切に」できるよう、互いの関わりを深める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
○校内や校外、地域の方たちとも、気持ちよくあいさつができる子どもを育てるために、教職員から進んで声をかける。児童会活動など、あいさつ運動を実施する。
○生活科・総合を中心に意図的計画的な単元構想や授業展開に努める。児童生徒の活動の視点が地域に向き、地域の人々との関りの中から、支え合う風土や多様な価値観を認め合える素地を養う。
○ふれあい遠足を中心に、ペア学年活動が年間を通して継続的にできるように計画する。
○メンター研修を活用し、道徳教育の指導方法を研修する。授業参観で道徳の授業を実施する。
○Y-Pに基づいた児童理解を行い、Y-Pプログラムの実施により、自己肯定感の向上につなげる。
○職員会議内の児童理解の時間を設け、児童の状況を共通理解する。些細なことでも気になることは、情報共有を迅速に行う。小さな事案をしっかり報告することが何より子どもを守ることだということの定着を進める。
下半期

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健やかな体【健康】) and 具体的取組 (1)家庭と連携し「早寝・早起き・朝ごはん」... (2)食に関心をもち、自ら健全な食生活... (3)学校保健委員会を開催し健康習慣が身に付くように...)

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態
・「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣が身につけていない児童が多く見られる。
・感染症予防対策の外遊び後、給食前などしっかりと手洗いをする習慣が身についた。
・ちょっとした運動でけがをする子が増えた。
・体力テストの結果は、全国や市の平均と比べ、下回っている種目が多い。
・高学年になるにつれて、外遊びを好む児童と内遊びを好む児童の二極化が見られる。
・学年が上がるにつれて、ゲームやスマホ、パソコンを長時間視聴している児童の割合が増えている。
(2)これまでの学校の取組状況
○縄跳び集会やドロケイなど、スポーツ委員会や保健委員会の児童が計画し、外遊びの機会を増やすようにした。
○「いきいきタイム」や「さわやかスポーツ」など、日常的に体を動かす機会を設けている。
○学校保健委員会で、心と体の健康について毎年テーマを設け、クラスで話し合ったことをもとに代表が集まって意見を交流し合った。校医の先生からのご意見もいただいた。
○体育科の授業で学習カードに自分の考えをまとめたり、動画を撮ってお互いにアドバイスし合ったりできるようにしている。

今年度の目標

子どもたちが健全な食生活と、体を動かす習慣を身につけ、主体的に生活習慣を改善できるような取り組みを進める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
○毎日学校に来ることが、生活習慣の定着になるため、学校に来たいと思える学級経営をしていく。安心感、一人ひとりの居場所づくり、わかりやすい授業に力を入れる。
○横浜市体力・運動能力調査や健康診断の結果を一人ひとりの児童が振り返る時間を設定し、課題解決に向けた具体的な実践につなげられるようにする。
○スポーツを通して自分の思いを表現できる力を育成するために、体育科の授業で学習カードに自分の考えをまとめられるようにしたり、お互いにアドバイスし合ったりできるようにする。
○体を動かす楽しさを感じられるように、スポーツ委員会を中心として、長縄集会や外遊びの機会を設けるようにする。
○家庭科等で、調理(実習)などを通して栄養のことについて実感をともなった理解を進める。
○「学校保健委員会」や「さわやかスポーツ」を通して保護者や地域および関係機関との連携をとり、運動などへの関心を高め、主体的な生活習慣の改善につなげる。
下半期